

8 青の里 鎮守の森ウォーク

若狭たかはま
ドコイコ!
ナニシヨ!
ミニツア-



青葉山麓の南に広がり、古墳群が点在するなど、若狭古来の歴史を感じる小和田。
そしてその鎮守の森を歩く、驚きと発見のある里歩きです。



8 青の里 鎮守の森ウォーク



青葉山麓の南に広がり、古墳群が点在するなど、若狭古来の歴史を感じる小和田。
そしてその鎮守の森を歩く、驚きと発見のある里歩きです。

1 伊弉諾神社(いざなぎじんじゃ)

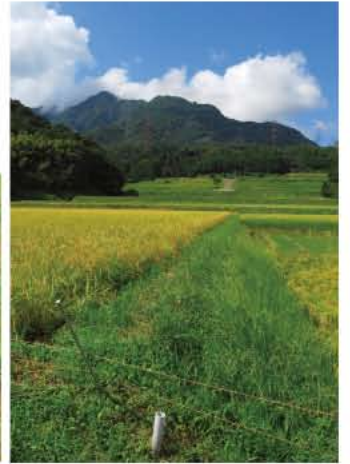
伊弉諾神社の祭神は、伊弉諾尊(いざなぎのみこと)・伊弉冉尊(いざなみのみこと)ですが、境内摂社として金劔神社・青葉神社・稲荷神社・恵比須神社・金比羅神社・八所荒神をまつるほか、境外社として中古地神社(ナコウジさん)・當勝神社(マサカツさん)・八幡神社(ハチマンさん)と山の神をまつっています。神社の創建年代は不明ですが、加賀国白山を開創した泰澄大師が、養老3年(719年)に白山姫神社七社のうちから金劔神社を分霊して、小和田・高野・中山・今寺の氏神としました。

毎年10月には区民挙げて祭礼がおこなわれます。



2 青葉山遙拝

平家の落人が拓いたといわれる小和田では、祭礼以外にも様々な神事・仏事や双方混在の行事が伝えられています。この青葉山遙拝もその一つで、1月3日の本頭などに、伊弉諾神社へ向かう道中、青葉山がきれいに見える場所に大御幣を立てます。



3 薬師堂

3年に1度、1月8日前後の日曜日には、「薬師のトウ」という区内安全と健康祈願をこめて、区民総出の行事が行われます。源平の合戦にあやかり、紅白に分かれて、わら縄を巻いた竹の旗竿をかつぎ、競い合って薬師堂へ運び奉納します。

地元に残る文献では、寛文6年(1666年)の献立覚の写しがあることから、実に340年以上の歴史ある行事であることがわかります。



5 地藏院

地藏院の什物「絹本着色弘法大師画像」(県の指定文化財)は、高野山伝来といわれる善通寺式大師御影で、少年時代を地藏院で過ごされた干潟龍祥博士(九州大学教授)が表具新装修理の寄進をされています。

その他、区内の大日堂には「木造大日如来坐像」が伝わるなど、永きにわたり神と仏が分け隔てなく信奉されてきた土地柄であるといえます。



6 中古地神社(なこじじんじゃ)

中古地神社のあるナコウジ山からは、昭和46年に石剣と石戈(いしのほこ)が出土し、国保有となり、出土品は京都国立博物館に収蔵されています。

中古地神社は、区民から「ナコウジさん」と呼ばれ親しまれ、7月1日の夜祭りには、夕暮れに禰宜が参拝し、祝詞と般若心経を唱えます。



4 ナナモリ

小和田区と高野区には「ナナモリ」と呼ばれる場所があり、それぞれ先祖代々の家族が、家内安全を願い祀っています。「モリ」は木の根本にほこらなど建てて祀られています。

「ナナモリ」の場所についてはいくつかの意見がありますが、次の7カ所のことを呼ぶそうです。

- 1 盛次庄助家のモリ
- 2 一瀬大町家のモリ
- 3 奥西家のモリ
- 4 盛次孫右衛門のモリ
- 5 井ノ上家のモリ
- 6 馬場弥平治家のモリ
- 7 由里田のモリ

転宅等により、7つの「モリ」のうち毎年参拝が行われているのは、盛次庄助家、一瀬大町家、奥西家の3つです。

盛次庄助家でまつる「モリ」は、円墳のそばにほこらが建てられ、毎年10月23日に参拝しています。

「モリ」は、小和田を拓いた祖霊をまつる場所、また平家落人の墓とも云われ、子々孫々大切に守られてきた聖地です。



7 二子山古墳

約1,500年ほど前(6世紀はじめ頃)に作られた前方後円墳(お墓)です。全長は26mで、後円部の径は16.8mあります。埋葬施設は横穴式石室(両袖式)で、何十年かの内に4人の人間が埋葬されています。高浜町でもここ小和田地区は古墳が多く発見されており、高浜の中でも早くから古代人により拓かれ発展していたと考えられます。

